

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～乳質・乳成分データのチェック～

出荷乳の乳質・乳成分データをチェックし、良質な生乳生産を心がける。特に、体細胞数が増加している場合は、牛の状態を確認し、乳房炎に感染している場合は早期治療に努める。

また、細菌数の増加を防ぐため、搾乳機器等の日頃の洗浄・殺菌作業を再点検するとともに、バルククーラーの定期点検を行う。

◇ 肉用牛 ～放牧中の飼育管理～

ダニが媒介し、小型ピロプラズマ原虫が原因となるタイレリア病（ピロプラズマ病）の発生を防止するため、放牧中は定期的に殺ダニ剤を使用する。また、初めて放牧する牛は特に注意して看視し、異常がみられる場合には、速やかに退牧させ治療する。

◇ 豚 ～肉豚の飼育管理～

気温の高い夏季は、軟脂豚やむれ肉が発生しやすいため、豚舎内の温度管理や適切な飼料給与に注意し、ストレスの軽減に努める。

◇ 鶏 ～あすなろ卵鶏の飼育管理～

あすなろ卵鶏の飼育は、鶏舎構造、飼育密度に注意し、発育段階に応じた採卵鶏用配合飼料を給与する。

◇ 草地・飼料作物 ～草地及び飼料畑の管理～

1 消雪が早く、5月第3半旬まで気温も高く推移し、牧草の生育は順調に進んでいることから、刈り遅れのないよう収穫を進める。

2 アワヨトウの早期発見に努め、多発した場合、刈取可能な草地は直ちに収穫する。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ GM 山田 健司
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 石澤 雅史 (内線: 4966)